

## 生活文化産業学

(第 1・3 木曜日 午後 14 時～／成徳学舎)

2012 年度後期 第 1 回 各地域における生活文化産業のケーススタディ

担当：大倉 朗寛

～講義の流れ～

1. はじめに／学会誌『国際文化政策 第 3 号』の内容について (14:00～/30分)
2. 各地域におけるケーススタディ／コモン・センスの探求 (14:30～/30分)
3. コモン・センスと生活文化産業について (15:00～/30分)
4. 【情報共有】スコットランド啓蒙、産業革命 (15:30～/10分)
5. ディスカッション、まとめ (15:40～/20分)

～内容～

1. はじめに／学会誌『国際文化政策 第 3 号』の内容について (14:00～/30分)
  - ・真の豊かさを実現する生活文化産業 —地域リーダーに求められる視点と力量—
    - I. はじめに 問題提起 —「便利さ」を追求してきた既存産業—
      1. 工業化を推進してきた既存産業の限界
      2. 新興国の台頭による先進国の衰退
    - II. 従来産業分類とコモン・センスの源流
      1. 産業の進化と分類の限界
      2. 産業革命とコモン・センス
    - III. 新たな産業分類とコモン・センスを形成する情報発信
      1. 既存産業におけるコモン・センス
      2. 新たな産業分類
      3. コモン・センスを形成する情報発信
    - IV. 地域ゆかりの偉人と地域資源の発掘
      1. 地域ゆかりの偉人の存在と活躍
      2. 地域社会に蓄積されている新たな産業を形成する源泉
      3. 地域資源の発掘と生活文化産業
    - V. 「真の豊かさ」を実現する生活文化産業
      1. 生活文化産業が目指すべき方向性
      2. 生活文化産業における新たな潮流

## 2. 各地域におけるケーススタディ／コモン・センスの探求（14：30～／30分）

我が国の各地域において多様な生活文化が継承され、各地域に固有の文化資源（地域資源）が潜在している。各地域におけるケーススタディ（事例研究）を行うことで、それらを発掘しながら、市民一人ひとりが自ら属するネットワークやコミュニティを、より善いカタチにしてゆこうと想い、そして行動できる、より高次元な共通認識（コモン・センス）を見出してゆきたい。

いま我が国では「創造」というキーワードがビジネスや政治の分野で多用され、新たなモノやコトを生み出すことが「善」とされている。しかしながら、新たなモノやコトを生み出し続けることは容易ではないし、その「創造」によって、より多くの市民の生活が豊かになり、生命が守られると考えるのは時機尚早である。いま最も重要なのは、熱意や信念さえあれば、誰でも新たなモノやコトを生み出すことができる実践や教育の場や機会に参加することができ、新たなモノやコトを生み出し続ける仕組みを利用することができるように場や機会が整備されることである。そうでなければ、新たなモノやコトを生み出すことに時間や労力など、生きるために必要な生活資源をムダに浪費する恐れがある。これまでの現場における私自身の様々な経験を踏まえて、あえて警鐘を鳴らしたい。

そのような視点から、私は、いかに普段の何気ない日常の生活文化の中から、固有価値を見出し、その価値を、より高次元で共有される共通認識（価値観）の存在と、その重要性を見出した。つまり、新たなモノやコトを生み出すことは重要であるが、それよりも、生み出した新たなモノやコトのもつ固有価値を、より高次元で共有できるパートナーとの信頼関係や、グループやネットワーク、コミュニティといった場や機会が最も重要ということである。と同時に、常に、パートナーとの信頼関係、あるいはグループ、ネットワーク、コミュニティでより高次元で意識が共有できるように情報共有できるは仕組みが必要不可欠となる。簡単に言えば、それは「新たな価値を創出し続ける仕組みづくり」となる。

そのより高次元で共有する共通認識（価値観）は、イギリス産業革命の源流となったと言われているスコットランド啓蒙主義における「コモン・センス」という概念を参考にすることができる。この「コモン・センス」を、「常識」という誰しも最低限知っておくべき「知識」という意味ではなく、自らが属するネットワークやコミュニティといった場や機会をより善くしてゆこうと想って行動できるモチベーション（動機付け）となるような「感覚」あるいは「意識」と位置付けて探求してみたい。

この新たな視点から捉える「コモン・センス」が、各地域の生活文化において、どのように形成され、新たな価値（商品やサービス）を創出し続ける仕組みづくり、さらには産業化に関連しているかを探求してゆくことにする。

本年度は、まず成徳学舎（市民大学院の校舎）がある地元・京都での様々な取り組みについて取り上げさせて頂き、その後、大阪での新たな取り組み、被災地における生活文化の再生、海外での取り組みを取り上げさせて頂いた上で、日本経済再生の鍵となりうる取り組み（特に企業と学生との交流など）について取り上げさせて頂く。

### 3. コモン・センスと生活文化産業について（15：00～／30分）

いま各地域で発生しているネガティブな事件や事故などが、マスメディアを通じて日々発信されている。そういったネガティブな情報を受信した市民の感覚（センス）は、どのように変化し、日々の生活や仕事において、どのように影響を受けているのであろうか。もし日々の生活や仕事において、ネガティブな影響を受けているのであれば、発信された情報を検証し、市民一人ひとりの感覚（センス）をバランス調整する場や機会が必要となる。そして、その場や機会においては意見や思想の中立性や公共性などが求められ、中立性や公共性などが維持されているほど、その場や機会を通じてやりとりされる情報は健全となり、その情報に基づいて日々の生活や仕事も健全に保たれる。

市民一人ひとりの感覚（センス）が健全にバランス調整されれば、各地域における生産や消費といった経済活動も円滑かつ迅速に行われ、その結果として地域振興につながると考えられる。これまで我が国は、明治維新以降、西欧で当時すすめられていた法律や知識でもって社会を制御する方向で近代化をすすめてきた。その結果として、法律でもって最低限の行動を制限しようとするものの制限しきれず様々な事件や事故が発生し、また、知識でもって様々な自然現象や事実を捉えようとするものの捉えきれず既存の知識で想定できない現象が発生しては、常にその事実や結果に対して後追いで対応してきた。

もし、より高次元な共通認識（コモン・センス）を重視し、各地域における場や機会を健全に保ち、多様に発展させようとするネットワークやコミュニティが、各地域あるいは各専門分野において形成されてゆけば、生産者と消費者の良好な信頼関係が構築されて、固有価値も適切に共有され、経済活動が円滑かつ迅速に行われると考えられる。

そのコモン・センスをベースとした新たな産業の形成が進めば、各地域において仕事おこしが進んで雇用が拡大し、市民一人ひとりの生活の質向上につながる。そういった形でコモン・センスを共有し、地域再生の担い手として市民を先導するのが地域リーダーであるが、その地域リーダーに求められる視点と力量について、『国際文化政策 第3号』に掲載して頂いたが、これからの時代においては、いかに目に見えない感覚（センス）を可視化し、ネットワークやコミュニティという場や機会を通じて、昨今の高度情報通信社会に即したコモン・センスを共有できる仕組みづくりができるかが最重要課題となるであろう。

市民一人ひとりの声なき声が、いわゆる顧客ニーズである。その見えない顧客ニーズをキャッチして分析し、新たな価値（商品やサービス）を創出し続ける仕組みづくりを整備できた企業が次の時代も生き残り、新たな産業の担い手として期待され、各地域の振興と持続性の確立に貢献し、各地域に暮らす市民一人ひとりの生活と仕事の質を向上させる。

生活文化産業学では、氾濫しているウソの情報に惑わされないように、「事実」「結果」「数字」を最重視して真実を見抜き、その真実の破片を後世が拾い集めて厳しい社会を生き抜いてゆけるように働けるように働ける。市民一人ひとりの生活や仕事の現状を見ずして産業形成や地域振興を語ることはできない。いかなる状況や立場におかれたとしても、そう肝に銘じて初志を貫き、今後も現場重視の研究者として活動을続けてゆくことに何も変わらない。

4. 【情報共有】 スコットランド啓蒙、産業革命（15：30～／10分）

- ・ スコットランド啓蒙における「学問の国」と「社交の国」 The ‘Dominions’ of  
‘Learning’ and of ‘Conversation’ in the Scottish Enlightenment  
坂本達哉（慶応義塾大学経済学部教授）  
[http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/publication/images/22\\_03.pdf](http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/publication/images/22_03.pdf)
- ・ スコットランド啓蒙期の主要学・協会，クラブについてー 川原和子  
[http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/79801/1/ade\\_24\\_1.pdf](http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/79801/1/ade_24_1.pdf)
- ・ 生活文化産業学 | 市民大学院（文化政策・まちづくり大学校）  
<http://bunka-seisaku.org/sbsg2012.html>

5. ディスカッション、まとめ（15：40～／20分）